

夢のつばさ♡プロジェクト 2019年度 事業報告書

2019年4月1日～2020年3月31日

1. キャンプ

(1) 夏キャンプ

【実施期間】2019年8月2日（金）～5日（月）

【開催地】（株）ブリヂストン保養所 奥多摩園（青梅市）

【参加内訳】子ども19名、学生ボランティア・OB/OG 44名（途中入替わり含む）、社会人ボランティアスタッフ・協力者18名（看護師含む）

【主な内容】

8月2日	開会式、アイスブレイクゲーム	受験生 スタディ
8月3日	朝の勉強会、水遊び、MY FIVE（大切にしたい価値）	
8月4日	朝の勉強会、講演会「健康を支える最新医療システム」、音楽会	
8月5日	閉会式、写真スライドショー	

(2) 秋の交流会

【実施日】2019年10月20日（日）

【開催地】宮城県仙台市（福沢市民センター、青葉区中央市民センター）

【参加内訳】子ども16名、学生ボランティア・OB/OG 22名、社会人ボランティアスタッフ2名

【主な内容】夏・冬の宿泊キャンプに参加した子どもと心の交流を続けるために被災地で行う日帰り活動。直前の台風19号上陸により東北各地でも被害があり、地域が浸水や停電で学校も休校になるなど、ご苦労なさったご家庭もあった。近況報告の時間を取って、子どもたちは学校や部活の話、スタッフは普段の勉強やアルバイト、仕事の話をするなど、様々な世代の話を共有し合った。学生たちが子どもの様子の把握に努めていることで、数か月離れていてもすぐに細やかなふれあいが可能になっている。保護者懇談会ではスマホの使い方について保護者からご相談があり、ちょうど参加していたIT関連会社経営の社会人スタッフが、スマホを子どもに持たせるにあたって、親はどんな確認をしておかなければならないか、について解説し好評だった。

(3) 冬キャンプ

【実施期間】2019年12月24日（火）～27日（金）

【開催地】（株）ブリヂストン保養所 奥多摩園（青梅市）

【参加内訳】子ども34名、学生ボランティア・OB/OG 46名（途中入替わりを含む）、社会人ボランティアスタッフ・協力者14名（看護師含む）

【主な内容】

12月24日	開会式、アイスブレイクゲーム	受験生 スタディ
12月25日	朝の勉強会、卓球大会、中高生プロジェクト（子どもと共働する企画作り）、音楽会、クリスマス会	
12月26日	朝の勉強会、先輩と話そう企画、遊園地づくり、20歳のお祝い	
12月27日	閉会式、写真スライドショー、夢のつばさスタディ応援メッセージ	

第1号議案

(4) 2019年春の交流会

2020年3月29日 催行予定のところ、新型コロナウイルス肺炎拡大のため、中止となった。

2. その他事業

(1) 広報活動

以下のイベントで夢のつばさプロジェクトの活動紹介を行った。

日時	イベント（実施者）	対象	場所
2019.4.8	かわさき市民アカデミーセミナー（滝澤）	一般 約40名	神奈川県
2019.5.17	豊洲市民マラソン（学生）	一般不特定多数	東京都
2019.5.25	NPO法人遺伝カウンセリング・ジャパン総会 （室伏・滝澤）	遺伝カウンセリング・ジ ャパン役員、社員	東京都
2019.6.26	女性エグゼクティブ協会事務局懇談（滝澤）		東京都
2019.6.29	田園調布学園土曜プログラム（滝澤）	中高生 40名	東京都
2019.7.27,28	たまプラーザ夏祭り（学生）	一般不特定多数	横浜市
2019.8.2	日本の次世代リーダー養成塾（室伏）	高校生・教員等約300名	宗像市
2019.9.7	作楽会セミナー（滝澤）	同窓会員約50名	東京都
2019.12.9	経団連懇談会（室伏）		東京都
2020.1.27	原子力損害賠償・廃炉等支援機構（NDF）と 懇談（室伏）		福島県

(2) ボランティア学生及びOG・OBの活動

ボランティアの大学生らは、夏・冬のキャンプや秋・春の交流会ごと、頻回にお茶の水女子大学内で会合を開いて企画・準備を実施、終了後には振り返りの会を開いている。例えば夏キャンプ実施の「MY FIVE」は、「自分にとって大切にしたい価値観を5つ選ぶとしたら何を捨てて何を残すか」をテーマにしたカードゲームで、子どもが「やさしさ」、「責任」、「信頼」、「自分らしさ」、「安心」、「富」、「友情」、「勇氣」、「愛」、「挑戦」等々のカードの取捨選択をしながら、5つ決定するものであった。自分はどうな人になりたいと思っているのか、どんなことを大切だと感じているのか、自分自身実感する様子も見て取れ、また子どもたちの向上心も垣間見えるものとなっていて、学生たちの企画力、周到な準備を評価したいと思った。

誕生日カードや受験生への応援メッセージの送付、新聞の発行なども熱心に進められ、子どもや保護者から好評である。「webを利用した日常的な学習支援」は現在、要望のあった高校受験生1名について行われた。この家庭教師／個人指導は、大学生の完全なボランティアで続けられており、子どもの様子や保護者への報告等を事務局も確認、把握して進められている。スカイプでの保護者面談も実施され、「第3子で忙しさもあり、親の把握不足に気づけて有益であった」との感謝の言葉をいただいた。

夢のつばさプロジェクトの広報や活動資金獲得のための活動については、引き続き有志が、たまプラーザ商店街の夏祭り、豊洲市民マラソンに参加してイベントを手伝い、広報・寄附活動を行った。

3. 総括

東日本大震災後9年目の活動は、2020年3月に予定されていた春の交流会が、折悪しく日本でも広がり始めた新型コロナ肺炎の感染者増加防止のため、残念ながら中止となったが、その他は順調に行われた。例年と同じく、東北3県各地の教育委員会や福祉担当課等を通じて一般に募集を行っており、そ

第1号議案

れぞれへ連絡報告を行ってよい連携が取れている。冬キャンプにおいては、盛岡の県立高校（岩手県教育委員会経由で参加募集を実施）から連絡があり、「生徒に学校外でもたくさんの体験をさせたいのでこうした取り組みは貴重である」とのお話をいただいた。高校の全員参加の部活期間中にもかかわらず、該当の生徒の夢のつばさのキャンプへの参加が特別扱いで認められ、本活動の意義を評価されたことは大変励みとなった。

今回の冬キャンプに参加した支援対象者は昨年冬と同じく34名で、これまでで最も多い人数となっている。本年度は年末の連休がなくなって子どもたちの冬休みの開始も遅く、12月24～27日という年末のウィークデーの開催となった。大学生ボランティアが徐々に人数を減らしており、OBOGの応援の得にくい中、負担が多いのではないかと案じたが、無事催行することができた。

今回、新規の子どもの参加申込が相次ぎ、小学生5名が参加した。その一人の小学校低学年の保護者から、「この夢のつばさについては、前々から知っていたが、ようやく手元から離す気持ちになったので、送り出したい。」という連絡があった。乳幼児の時に親御さんが亡くなり、祖父母の手でお育てになってきたとのことで、「この怖い世の中に、我儘一杯、世間知らずで育ててしまって、将来が心配でたまらない」とお話しになった。「この活動で良いお仲間ができると思います。どうぞご参加ください」と申し上げて参加していただいたが、ご本人はとても楽しんで帰られ、すぐにお礼のお電話があった。震災後、託された幼子の養育に日々心を砕いて10年、ようやくこうした機会に参加させたいと思う保護者があることに改めて想いを致し、夢のつばさの活動の意義は全く褪せていないと思われる。

18歳以上の、高校卒業後も引き続き参加している子どもたちが、学生スタッフとして送迎やキャンプ中に後輩の世話をを行うことが定着してきている。それぞれが自覚をもって務めており、大変うれしいことである。そしてまた今年も冬キャンプで、成人した子2名のお祝いの会を行ったが、専門学校生となった子が、「中高生のころ学校が辛くて登校できない日が続いたが、夢のつばさの大学生に話を聞いてもらったり、みんなに会ったりして安心できた。夢のつばさのおかげで、今はやりたいことに向かって頑張っている。」と述べて、全員から温かい拍手が送られていた。また、中高生プロジェクト企画で、高2の女子がこの活動の意義をしっかりと受け止めて、「私を心配してくれる人が沢山いることを知った。私の成長を見てもらうことで、そのご恩返しができるようになりたい」と語るなど、子どもの成長を感じる機会も多かった。

新型コロナ肺炎が社会に及ぼす影響が非常に大きいことが次第に明らかになり、今後も、子ども達と大学生と一緒に宿泊行事をすることが難しくなっていくことが考えられるが、スタッフ一同、引き続き有益な支援を考えて実施したいという意を強くしている。